

1. 法人会版健康経営宣言書「企業」用

(1) 所属法人会

所属県連名	沖縄県連	所属単位会名	北那覇法人会
-------	------	--------	--------

(2) 企業情報

会社名	(株)東設計工房		
代表者名	山城 浩二 (青年部会)		
会社所在地			
電話番号		FAX番号	
業種	専門・技術サービス業	社員数	11名
会員名	※代表者名と同じ場合は記入不要		
会員メールアドレス			
部会への所属 <input type="checkbox"/>	※所属している場合のみ、該当部会にチェックを入れて下さい	<input checked="" type="checkbox"/> 青年部会に所属	<input type="checkbox"/> 女性部会に所属

(3) 健康づくりの取組目標・取組内容

健康経営宣言 (目標)	<ul style="list-style-type: none">定期健診を全社員が受診します。定期健診後の治療、保健指導を推進します。感染症予防に取り組む。
実施している活動を 該当するカテゴリー に記載ください。	<p>1 フィジカル (身体的) 部門…運動や身体的な改善内容等</p> <ul style="list-style-type: none">毎朝のラジオ体操 ・ 会社建物の階段優先利用 ・ 空調服の導入ウォーキングイベント参加 ・ ハイキング (社内交流) <p>2 メンタル (精神的) 部門…社員のメンタルヘルス対策や職場環境改善等</p> <ul style="list-style-type: none">BBQなど社内交流 ・ 業務時間内での休憩 (社内交流)ノー残業デーの実施 (週に一日) <p>3 ソーシャル (社会的) 部門…地域貢献活動やボランティア活動等</p> <ul style="list-style-type: none">地域清掃活動への参加

(4) チェック項目 ※該当箇所にチェックをそれぞれ1つ入れてください

掲載について	<input checked="" type="checkbox"/> 全法連ホームページ及び内部資料に所属・社名・取組内容を掲載することを承諾します。 <input type="checkbox"/> 内部資料に所属・社名のみ掲載することを承諾します。 <input type="checkbox"/> 全法連ホームページ及び内部資料のどちらも掲載することを承諾しません。
アンケート調査システムについて	<input checked="" type="checkbox"/> 裏面の確認事項に同意し、事務局によるアンケート調査システムへの代理登録を承諾します。 <input type="checkbox"/> アンケート調査システムは登録済みです。…裏面記入不要 <input type="checkbox"/> アンケート調査システムへの登録は行ないません。

上記のとおり申し込みます。

企業名	株式会社 東設計工房
(企業名) カナ	カブシキガイシャ アズマセツケイコウボウ
申請者名	山城 浩二
(申請者名) カナ	ヤマシロ コウジ
申請者の役職名	代表取締役
カテゴリー 1 フィジカル 2 メンタル 3 ソーシャル	1
活動のタイトル	食べて、歩いて、笑顔！社員の健康応援プロジェクト
活動期間の始期（年月日）	4/1/2019
活動期間の終期（年月日）	6/30/2023
取り組みに至る背景	弊社は2018年度から健康経営に取り組んでいます。当時那覇市の事業「頑張る職場の健康チャレンジ」に取り組んだことがきっかけです。その際に健康とは身体的のみならず精神的、社会的な意味の健康も含むということを知り、社是の一部「社員とその家族の幸せを実現する」という理念に合致した活動であると思ったことから全社一丸となって取り組むことになりました。また身体的な健康面において大きな問題を抱える社員は少なかったものの、健康状態・精神状態の不調からくる作業効率の低下は無視できないものがあり、今後の働き方改革に求められる勤務時間の短縮のために取り組む価値が高いものと判断しました。
参加人数	11
活動内容について	健康診断の受診率100%、毎日の朝礼前にラジオ体操を行う。エレベーターの使用を避け階段を使用。法人契約をしている保険会社の提供で、福利厚生サービスを取り入れており、社員が気軽に相談出来る場として利用している。建築設計を業務としているため、近い現場には徒歩で向かい日々の運動不足解消を心がけている。社員旅行ではシーカヤックを体験。また、トレッキング（石川岳4km、比地大滝3km）やBBQなど、社員家族も参加可能な交流会を定期的開催。自然に触れ、食事をしながら、家族も交えて親睦を深めている。那覇市主催のウォーキングイベント5~8kmのコースへ参加し、那覇市の自然や街を楽しみながら運動した。 （※2020年・2021年はコロナの影響でイベント中止。）建築見学会として社内独自の交流会を年に数回設けている。運動イベントや建築見学会の後には、ランチ会を行い、交流と心身のリフレッシュを図っている。年に数回講師を招き、食生活・歯科・医療に関する各種セミナーや講習会を開催。地域清掃活動も積極的に参加している。
アピールポイント	社員皆で建築見学へ行く“ランチミーティング”を年に数回実施。見学後に昼食を取りながら、見学した建物について意見を交わし業務のスキルアップを図っている。皆で歩き、食事をし、健康増進につながる上、社員間のコミュニケーション力を強めることで、業務連携が一層スムーズとなる。運動イベントへの参加は、暑い建設現場でもバテないための体づくりにもなる。社内イベントは皆が楽しめるよう、社員が関心を持ったスポーツを中心に実行している（例：シーカヤック、トレッキング、バドミントン、ソフトバレーボール、グランドゴルフ、ボウリングなど）。ほかにも日常的に取り組んでいるものとして、ラジオ体操、階段利用がある。また、年始には餅つき会を開催しており、周辺地域の方をお招きして地域交流をしている。
活動の成果	総務部で各社員の健康診断日の管理・告知を徹底することにより、受診率100%の達成を継続できている。もともと健康面で特に問題のある社員はいない傾向にあったが、様々な活動をする中で、社員皆の健康意識が高まり、適正飲酒・禁煙・食事・運動習慣を高いレベルで維持できている。トレッキングやウォーキングイベントへ定期的に参加し、体が慣れたことでフルマラソンなどのより本格的な運動を自ら始めた社員も複数名いる。運動することが社員の中でも定着しており、担当者以外からもイベントの企画・提案が積極的に行われ、実施となることも多い。セミナーを定期的開催していることで、各社員の意識が変わった。食生活に関しては、セミナーで学んだ通り社員が実際に発酵食品を食生活に取り入れたり、コンビニ利用を避け手弁当をする社員が増加するなど効果が見られた。歯科・医療では歯の大切さや自身の健康状態を見直したことで、生活環境をより良くすることが出来た。

財政健全化への貢献度

毎年実施の社内アンケートへの回答を比較すると財政状態とともに変化が見られた。・勤務先の取り組みを活用して自身も健康になれると思うか？（前回 73%→今回 100%）・1回 30分以上の軽く汗をかく運動を週に 2 回以上、1 年以上継続（前回 27%→今回 45%）・仕事に主体的に取り組んでいる（前回 91%→今回 100%）・職場には自由に発言できる心理的安心感がある（前回 91%→今回 100%）・年間一人当たりの体調不良による平均欠勤日数（前回 4.5 日→今回 3.5 日）・健康なときに発揮できる仕事の出来を 100%としての自己評価（前々回 78%→前回 84%→今回 87%）→労働生産性低下率に換算した場合（前々回-22%→前回-16%→今回-13%）→会社損失額の比較用試算結果（※一人当たり給与 360 万円とした場合）〈前々回〉 $360 \text{ 万円} \times -22\% = \text{約 } 80 \text{ 万円}$ （＝一人当たりの損失額） $80 \text{ 万円} \times 11 \text{ 名} = 880 \text{ 万円}$ （＝会社全体の損失額）〈今回〉 $360 \text{ 万円} \times -13\% = \text{約 } 45 \text{ 万円}$ $45 \text{ 万円} \times 11 \text{ 名} = 495 \text{ 万円}$ 調査を始めた前々回と比較すると、会社の損失額は約 385 万円の減少となり、割合では 43.8%も減少している結果となった。併せて、売上利益も前年比 34%UP した（2023 年 3 月末時点）。













第46期スローガン
「克己」

一魂

吉村アドバイザーフィードバックシート

吉村健佑氏：精神保健指定医・労働衛生コンサルタント・公認心理師・
千葉大学医学部附属病院 特任教授・産業医・
全法連青連協健康経営プロジェクトアドバイザー

対象：ファイナリスト単位会・部会員企業

【部会員企業】

	良かった点・評価できるポイント	今後の取り組みに向けてのアドバイス
株式会社東設計工房（沖縄・北那覇）	<ul style="list-style-type: none">・幅広い活動は、参加もしやすくほぼ全員参加となっているように見受けられる。取り組みの切り口としては良いと感じる・健康診断100%受信率は良い・アンケート結果のモニタリングにより、様々な角度から効果測定をしている点が良い。また、独自の改善損失額や労働生産性に着目し評価・計算する姿勢は、根拠は別として良いと思う	<ul style="list-style-type: none">・運動イベントへの参加の活動の成果と、企業全体への生産性の向上や医療貢献への効果として測定したり、可視化できたりするとより良いと感じた